

有機水稲のクログワイには秋起こしが有効！

水稲有機栽培における多年生雑草クログワイの耕種的防除法として、ロータリーによる秋起こしが、島根県においても有効であることを確認しました。

クログワイ（写真1）は、塊茎（写真2）から発生する多年生雑草です。水稲有機栽培では、クログワイに対する効果的な防除法が少ない中で、秋起こしにより塊茎を露出するなど、冬期の乾燥や低温にさらして死滅させる方法が有効とされています。冬期の降水量が多く土壌が乾燥しにくい当県においても、ロータリーによる耕深15cm程度の秋起こし（写真3）のクログワイに対する防除効果を試験しました。



写真1 稲株間のクログワイ



写真2 クログワイの塊茎



写真3 秋起こし(ロータリー)

○試験結果の概要

秋起こし区は、無処理区に比べて、8月上旬のクログワイの発生が減少しました（図1）。

○活用上の留意点

- クログワイ対策を必要としない通常の有機栽培では、一年生雑草等の種子を掘り起こさないため、耕深5～10cmの浅い耕起とします。
- トラクターの車輪跡や耕深が深くならないように、土壌が乾燥した日を選んで行います。
- 土壌を乾燥させ、滞水を防ぐため、耕起前と耕起後に明きよ掘り（作溝）を行います。

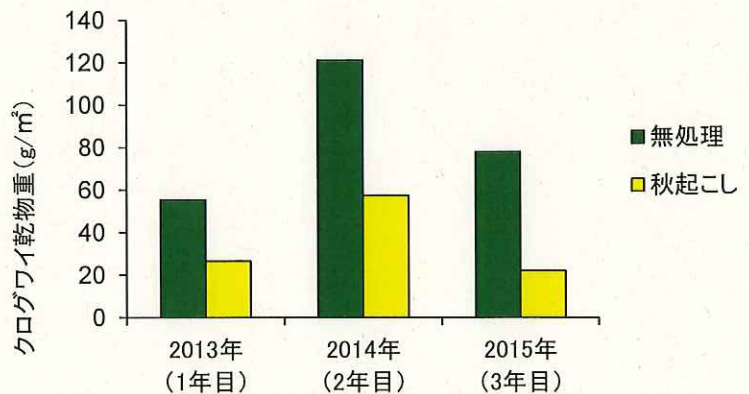


図1 秋起こしがクログワイの発生に及ぼす影響(8月上旬)

※秋起こしは前年10月下旬または12月上旬にロータリーを用いて耕深15cmで実施。